

ANNUAL REPORT



平成 21 年度 年次報告書

2009.4.1-2010.3.31

いのちにやさしい社会をめざして。



Japan Animal Welfare Society
社団法人日本動物福祉協会

●もくじ

ごあいさつ	1
I 動物福祉活動	2
□ 動物虐待防止	
□ 犬・猫の小旺・玄勢于術の推進	
□ ペット動物の購入問題	
□ 動物との共生を考える沖縄会	
□ 暖流事業	
□ 環境省 中央環境審議会 動物愛護部会	
□ 農林水産省 検討会	
□ 各自治体における協議会・委員会	
□ 緊急災害時動物救援本部	
□ 動物一口普及推進会議 (A.I.P.O.)	
II 広報・啓発活動	6
□ 第 50 回動物愛護の作文コンテスト	
□ 動物愛護週間中央行事	
□ JAWS レポート	
□ 小冊子「どうぶつのきもち」発行	
□ 講演・研修・取材等	
□ パネル展	
□ 電話等による相談	
III 募金活動	8
□ 常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本	
□ 各種オリジナルグッズの販売等による募金	
□ 寄付金	
IV 会員募集活動	9
V 事務局関係	9
□ 臨時会員総会	9
□ 定時会員総会	9
VI 各支部の活動報告	10
■ 北海道支部	10
■ 栃木支部	10
■ 新東京支部	12
■ 横浜支部	12
■ 相模支部	14
■ 南大阪支部	14
■ 阪神支部	15
■ 徳島支部	15
■ 三重連絡所	15
VII 財務状況	16

表紙
写真

第50回動物愛護の作文コンテストから
名譽総裁常陸宮妃華子殿下から記念品をいただく受賞者(右)
講演会開催(左)



動物を虐待から守り
あらゆる「いのち」に
やさしい社会を
築いていくために。

ご支援とご協力をお願い申し上げます。

●お振込先：郵便振替
口座番号：00130-6-20714
加入者名：社団法人 日本動物福祉協会

終身会員(L)	140,000円	1回限り、正会員2名の推薦を要する
法人会員(CJ)	50,000円	(1口) (年額・1口以上)
維持会員(S)	7,000円	年額・正会員2名の推薦を要する
賛助会員(A)	3,000円	年額
青少年会員(J)	1,000円	年額・20歳未満

□□□□
一般基金 動物救護基金 不妊・去勢手術助成基金 動物の保護・救助
その他、協会の全般的な活動に対するご支援 不妊・去勢手術に対するご支援 新しい飼い主探しに対するご支援

ごあいさつ 理事長 山下真一郎

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

創立52年目となりました平成21年度は、経済情勢の厳しさが続き、暗いニュースも多かったのですが、皆様のお力添えのお蔭を持ちまして、新たな展望に繋がる活動を開拓することが出来ました。変わらぬご支援に対し先ず心から御礼申し上げます。

また、JAWS 英国委員会並びにパッカーズ・ファンデーションの当協会の活動に対する深いご理解と力強いご支援に深く感謝申し上げます。

さて、改正「動物の愛護及び管理に関する法律」の見直しも、いよいよ1年後に迫ってまいりましたが、私共は「動物との共生を考える連絡会」の幹事団体として、一般向けのシンポジウムや国会議員向けの講演会・パネル展示などを実施してまいりました。

8月には協会PRの強化を目指してホームページを全面改訂し、お子様とご両親向けの啓蒙冊子「どうぶつのきもち」を刊行いたしました。

11月には小中学生を対象として継続してまいりました「動物愛護の作文コンテスト」が第50回を迎える、応募数も前年より大幅に拡大することができました。

また、12月にはハワイから専門家を招き、シェルター動物のケアについてのJAWSセミナーを東京で実施し、充実した内容に、高い評価を頂きました。

不妊・去勢手術の助成やマイクロチップの普及推進にも年間を通して注力してまいりましたが、私共は今後もこうした活動に対する社会一般の理解を深め、情報を発信して、新たなご賛同者を得てしていくことが必要と考えております。

会員並びにご支援下さる皆様のお力を頂きながら、更に人と動物が共に幸せに暮らせる社会の実現に向けて、活動の幅を広げ、支援の輪を広げる努力を重ねる所存でございます。

新年度も、数々の課題に取り組んでいくに当たり、皆様の変わらぬご支援に改めて感謝申し上げ、ここに平成21年度の活動成果をご報告いたします。

皆様の御健勝を謹んでお祈り申し上げます。

名誉総裁

常陸宮妃華子殿下

役員

理事長 山下 真一郎
副理事長 斎藤 勝
理事 安田 幸子
理事 加藤 笑子(経理委員)
理事 兵藤 哲夫
理事 麻生 泰
理事 伊藤 美子
理事 佐野 登(総務委員)
理事 服部 真二
理事 井上 多賀子
理事 清水 道彦
監事 高島 信之
監事 児玉 惠継

海外委員

英國日本動物福祉協会
理事長 T.Crittenden

事務局長 桜井 邦広
事務局次長 川崎 敏
獣医師・調査員 山口 千津子
獣医師・調査員 菅野 多恵
調査員 大竹 里美
事務員 高村 裕子
事務員 小犬丸千寿美

CCクロスマッチ 北村 美代子
CCクロスマッチ 深谷 美香

顧問

安部 勝人 佐良 直美
藤原 澄子 倉林 恵太郎
池本 卯典 遠谷 正
山崎 恵子

現行法の範囲？ それとも限界？

● 動物虐待防止

動物の愛護及び管理に関する法律が改正されて4年が経過し、一般社団法人ペットフード協会平成21年度調べでは内容を理解しているかどうかは別にして、約80%の市民が法律の存在を知っているという結果が出ています。しかし、今年度に協会に寄せられた相談や苦情を見る限り、まだ改正法が充分に適用されていなかったり、法律自体が不十分であることを痛感します。来年の法の見直しに向けて活動していくことは勿論ですが、現行法を使いこなすことで、もっと動物を苦痛から救えるのではないかと思うケースが多くあるのです。

飼い主からひきとられ、木箱に詰め込まれた猫たち

特に、栃木県にある動物愛護を図るNPO法人のケースでは、近隣住民が数年に亘りその飼育管理の悲惨さ及び臭気・鳴き声を自治体や警察に訴え続けていましたが、改善されることなく日時のみが経過していくために、当協会栃木支部が近隣住民の協力を得ながら、12月に動物虐待で告発しました。この団体は、飼えなくなった動物の引き取り業を行っており、引き取りに際しては、「新しい飼い主を見つけるか一生きちんと飼育します」と言って飼い主からお金を徴収していました。ところが、引き取り後は、適切な世話をすることもなく庭や小屋に放置し、病気になっても獣医療を与えず、苦痛の内に次々と動物が死んで行く状態で、中には、山中に遺棄された動物や自治体に引き渡された動物もいました。その悲惨な状態は近隣住民によって、カメラに収められていました。その写真を証拠に虐待で告発したのです。動物を渡した飼い主がその後のことを問い合わせてくることはなく、引き取るとともに、動物がいる自宅ではなく、離れた場所で落ち合って引き取っていたようです。これから、このような引き取りや高齢動物の預かり業が新手のビジネスとして増えてくるのではないかと危惧しております。動物を金儲けの道具としか見ていない人がやれば必ずや動物が犠牲になります。安易に動物を手渡してしまう人々がこのような虐待ビジネスを生じさせ、存続させると言っても過言では

病気になってもそのまま放置された犬

I 動物福祉活動

平成20年度全国統計

	引取数		処分数	
	成熟個体	幼令個体	返還・譲渡	殺処分
犬	90,810	22,678	32,774	82,464
猫	50,867	150,752	8,311	193,748

(注)引取数の成熟個体には、狂犬病予防法に基づく抑留が含まれる。
殺処分数には、幼令個体などの保管中の病気等による死も含まれる。
(幼令の個体は離乳していない個体)

(環境省)

ないと思います。

現在、動物取扱業として登録されている業者の場合でも、街中で数百頭の犬を劣悪な状態で飼育繁殖していたブリーダーに自治体と警察の手が入ったり、小さなケージに入れられた幼令動物がぐったりとしていると通報されたりと問題が頻発しています。現行法で改善指導・勧告が出来る事例でも、なかなか指導が行き届かず、遵守基準が守られていないにも関わらず、登録が取り消されることはほとんどありません。環境省が、自治体に収容された動物の殺処分を半減させる事を打ち出しましたが、それは譲渡数の増加のみならず、飼い主への返還率の上昇、引取りや捕獲の減少など総合的に努力するということなのです。むやみに繁殖させて売る行為や不妊・去勢手術をせずに不幸な猫を増やし遺棄する行為など、いわゆる蛇口をまず規制し、閉めなければ実現できないのです。

また、生命ある動物を景品として配布することも日本中で行われております。ゲームセンターのUFOキャッチャーに瓶入りの観賞



UFO キャッチャー (エビ)

用エビを入れて取らせたり、ホームセンターの20周年記念でテナントのペットショップが子犬を抽選でプレゼントする企画を立てたりと、まるで物扱いです。幸いにもこの2件のケースは申し入れを受けてくださり、ゲーム機を撤去し、企画を中止しました。法律で禁止したいものです。

残酷な猫の虐待をはじめとする動物の殺傷事件も立て続けに報道されるのですが、犯人が見つかることも多く、殺伐とした社会の中で、犠牲になる動物が後を絶ちません。

警察による迅速な捜査、厳しい罰則の適用で、動物も同じ生命であること、心も感情もあること、法律で守られていることを世に知らしめてほしいと思います。

ぜひとも、今回の法改正では、早期介入・早期改善指導によって動物虐待を未然に防止し、動物福祉を推進するシステムを基盤に据えられればと願っております。

● 犬・猫の不妊・去勢手術の推進

平成21年度の「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン」は、岩手県と鹿児島県において各地域の獣医師会ご後援の下、実施いたしました。不妊手術には1頭1万円、去勢手術には1頭5千円の助成金をそれぞれの地域でメス(犬猫合わせて)200頭、オス(犬猫合わせて)100頭の予定で募集いたしました。募集に際して、動物病院や関連自治体に告知ポスターを掲示して頂くとともに、各地域の新聞にも取り上げて頂いた結果、本年も沢山のご応募を頂きました。岩手県からは1,170通もの応募ハガキを、また鹿児島県におきましては2,071通もの応募があったため、急速鹿児島県での当選頭数を割り増して対応いたしました。その一方、本年も当選後の助成金交付未申込が2割強ありました。

	助成金支払頭数			
	メス(頭)		オス(頭)	
	犬	猫	犬	猫
岩手県	29	179	13	66
鹿児島県	56	259	18	81
合計	85	438	31	147

当協会のキャンペーンの告知・応募期間は約2か月半ですが、対象とさせて頂いた地域からは大きな反響がありました。未だ自治体や獣医師会等での助成金制度がない地域においては、ぜひ不妊・去勢手術のための助成金制度を検討して頂きたいと思います。特に、飼い主のいない猫問題は全国各地で深刻化しています。“殺処分ゼロ”へ、という数のみにこだわった気運が高まっている昨今ですが、安い繁殖の改善をまず真剣に考えるべきではないでしょうか。

各支部を通して助成金を出すことで、不妊・去勢手術の普及をし、不幸な犬や猫を1頭でも減らすために努めました。本・支部合わせた頭数の総計は4,956頭でした。内訳は以下の通りです。

	メス	オス	性別不明
支部合計 助成頭数	2335	1734	155
本部合計 助成頭数(注)	536	196	0
本・支部 助成頭数	2871	1930	155

(注) キャンペーン、CCクロを含む。

● ペット動物の購入問題

平成21年度に当協会に寄せられたペット動物の購入に関する相談は、前年度に比べて若干ながら増加いたしました。その内容は、前年度に引き続き約8割以上が動物の健康に関する問題で、先天性疾患や販売元で既に感染していたと思われる感染症等が購入後に発症し、販売元とトラブルになった

という相談でした。平成18年に「動物の愛護及び管理に関する法律」が改正され、動物取扱業者に登録制が敷かれて遵守基準も制定されたものの、未だに何百頭もの動物を不衛生な環境で飼育・繁殖し、離乳間もない頃に売りに出す繁殖業者が多く存在します。ペットショップにおいても、不衛生な環境で飼育展示し、不健康と思われる動物を適切な説明もせずに販売し、購入直後に起こった健康悪化にも何も対応しないといったところはまだあります。



本年度、当協会に寄せられた相談の統計で、購入方法を「ネット販売」と答えた人の割合は22.8%でした。これは前年度の22%と比べるとほぼ同じ割合ですが、3年前の統計では6%だった事から、インターネットで動物を購入している人が徐々に増えていることがわかります。ネット販売では、手元に動物が来るまでその動物の状態を直接確認することはできません。ネット販売で購入した動物に関する相談には、手元に届いた時には既に動物の健康状態が悪く、治療のために高額な費用がかかり、販売元へ問い合わせたものの連絡がつかなかったり、取り合ってもらえない等、購入者自身が購入前に直接足を運んでいたら防げたかもしれない問題もあります。インターネットで何でも購入できるようになってきた昨今では、このようなネット販売によるトラブルもさらに増えることが予想されます。

一年後に予定されている「動物愛護管理法」の見直しで、ブリーダーやペットショップ等への監視・指導体制の強化や、動物のネット販売や移動販売の禁止等、動物取扱業者への規制をさらに強化できるよう、今後もさらに他団体と連携をとりながら法律見直しの活動に力を入れていきます。

● 動物との共生を考える連絡会

今年度も幹事団体として現行動物愛護管理法の徹底普及と適用推進に努力すると共に、平成23年の法の見直しに向けて、連絡会見直し案をアピールすべく、シンポジウム開催や参議院議員会館会議室において勉強会を開催するなど様々な活動をしました。また、問題の多いペットのネット販売・移動販売を次の法改正で禁止したいと「ストップ！ペットのネット販売・移動販売」キャンペーンも強化継続しました。



三重県猪名部神社・

多度大社上げ馬神事における馬の扱いが年々悪化、毎年改善の申し入れを行ってきましたが、改善が見られませんでした。今年も馬への執拗な暴力が見られ、多度大社においてその場面を撮影することができましたので、馬の専門家の方々の意見も聞きながら、まずは改善の話し合いをするもその兆しがなく、12月に馬への虐待で桑名警察署に告発しました。

●譲渡事業

新しい飼い主さがし

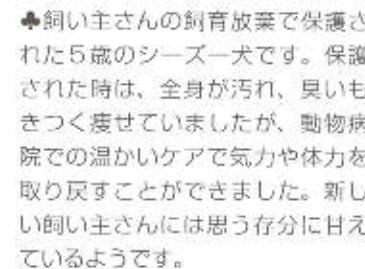
本年度も本部・支部よりたくさんの動物たちと新しい飼い主さんとの出会いのお手伝いをさせていただきました。本部からは犬15頭、猫3頭、ウサギ1頭、本部CCクロからは犬68頭、支部からは合計犬160頭、猫462頭、総数で犬243頭、猫465頭、ウサギ1羽もの動物たちが新しい家族に迎えられました。



実験施設の繁殖犬として5年間狭いケージで生活していたこのビーグル犬は、声帯除去の手術を受けていたため、うまく声を出す事も出来ず、とても怖がりました。しかし、ボランティアさんの力を借りて少しづつ環境に慣れ、背景を十分理解して下さる優しい飼い主さんに出会うことができました。



飼い主さんの事情でほとんど外出することのできない生活をしていたアメリカンコッカースパニエル犬でしたが、一時預かりのボランティアさんは様々な所に連れて行って頂き、また新しい飼い主さん、さらにその親戚の皆さんと、次々と沢山の方々に囲まれて共に行動し、今は本来の陽気な性格を發揮して毎日生き生きと生活しているようです。



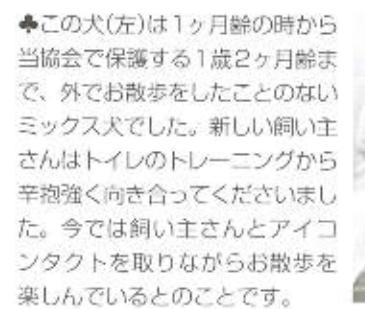
このビーグル犬（1歳・オス）も実験施設からレスキューされました。人や他の犬との接し方を知らず、とにかく元気いっぱいであったため、しつけのインストラクターさんが一からトレーニングをして下さいました。新しい飼い主さんも譲渡初日からしつけのレッスンを受けるなど、元気な犬との生活を工夫して下さっています。



板木支部と連携をして新しい飼い主探しをしたM・ダックスです。日常生活のしつけがまだできていない4ヶ月齢の子犬で、外を歩くことも苦手でした。譲渡当初より、新しい飼い主さんは時間をかけてトレーニングをして下さり、今では沢山のことが出来るようになっています。



飼い主さんの事情で他人に預けられたまま、落ち着かない生活を送っていた2歳のケアンテリア犬ですが、新しい飼い主さん宅では、生まれた時からいた犬のように安心して過ごしているそうです。先住犬や飼い主さんが飼育されている小鳥たちとも仲良意識が非常に強く、一緒に良く遊ぶそうです。



4匹いた子猫兄弟のうちこの1匹だけなかなかご縁がなく、1年以上飼い主探しを継続していました。預かりボランティアさん宅で、先住の猫とも溶け込み、すっかり安心して過ごしていたことから、そのご家族が正式に飼い主になつて下さいました。手先が白いところからソックス君という名前です。



4

今年度は、毎年開催している知的ペットライフ講座の第4回目、「猫の行動学」を水越美奈先生に講演していただくと共に、12月に開催されたNPO法人ノッツ主催の神戸アニマルケア国際会議において、ワークショップⅢ「産業動物の福祉と経営」を主催し、産業動物の福祉について討論しました。

CCクロ

神戸市との官民協働である譲渡事業は、2009年度より休日の作業において神戸市と委託契約を結び、これに伴い休日アルバイトのスタッフを1名増員することができました。「犬にも人にも社会にも幸せな譲渡」の輪を私たちの現場だけでなく、もっともっと広げていきたいと思います。

◆同窓会を発展型に… 昨年度の初の試みであった譲渡犬同窓会は春と秋の2回開催を予定していましたが、春は新型インフルエンザのためやむなく中止となりました。秋には44組のご家族に参加していただき、トラブルなく楽しいひとときを過ごすことが出来ました。現在は神戸市とCCクロとの共同主催という形をとっていますが、今後は飼い主さん

の中から中心となっていた方を募り、同窓会の開催主体を飼い主さんたちに移行して、CCクロがそのサポートをしていけたらと考えています。

◆募金箱の設置 神戸市動物管理センター内の動物慰靈碑の横に、新調した募金箱を置かせていただけるようになりました。これまで慰靈碑の上に硬貨など現金をお賽銭のように置いていかれる方が多くお参りされていました。募金として受け取らせていただけるようになりましたので、秋に開催される動物慰靈祭にあわせて募金の会計報告をさせていただいている。

◆神戸アニマルケア国際会議2009 12月に神戸で開催された国際会議の場で、官民協働の取り組みについて発表させていただく機会に恵まれました。CCクロは民の立場から、ボランティアの現状や課題、今後の展望について発表させて



ラッセルくん（雑種・♂）

ラッセルくんを迎えるにあたって、なんと飼い主さんは予定していた海外旅行をキャンセルされましたが、「旅行をキャンセルして、この子を迎えることが出来て本当に良かった！」と言っていただいています。性格は穎やかでご近所でも人気者のラッセルくん。時々センターにもあそびに来てくれますが、ボランティアやスタッフのことをよく覚えてくれていて、今でも思いっきり甘えてくれます。この人懐っこさが人気者の秘訣のようです！

幸
せ
に
な
っ
た
犬
た
ち



あんこちゃん（雑種・♀）

お母さんに頭をなでてもらって、とても気持ちよさそうなあんこちゃん。犬仲間とも上手にごあいさつが出来るので、これからあんこちゃんと一緒にいろんなことにチャレンジしてみたいそうです。ご家庭でも困ったことがなく、素直なあんこちゃんと、アグリティやドッグダンスなどをやってみたいと興味をお持ちのお母さん。あんこちゃんとなら何でも出来そうですね！



展示会

いただきました。ボランティアであるが故に長続きしないこともあります、その半面、長く続けて活動に参加してくださっている方はそれぞれにやり甲斐を見出してくださいます。動物福祉の向上という目標を共有しながら、譲渡事業の拡充や他団体との交流・連携、啓発活動の充実などの具体的な課題も見えてきました。

◆イベントへの参加 CCクロの活動を広く正しく知っていただくために、民間団体主催のイベントや区の動物愛護フェスティバルに参加させていただきました。PR活動をしながら感じたことは、一步外に出ればまだまだ適正飼養の啓発が充分ではないということです。籠札、注射済票、迷子札を装着していない犬をたくさん見かけました。今後のイベントではPR活動とともに、啓発活動にも力を入れたいと思います。

◆不妊去勢手術実施頭数と譲渡実績 2009年度の不妊去勢手術実施頭数は、オス15頭、メス12頭の計27頭、新しい飼い主のもとに迎えられた犬は、子犬37頭、成犬31頭の計68頭でした。

また、2009年度より、子犬を迎えてくださったご家庭に不妊手術助成金を交付させていただけたことになり、不妊手術の実施率は90%を超えました。

● 環境省中央環境審議会動物愛護部会

平成 20 年 6 月に成立した「愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）」に基づいて定められた基準・規格、及び、動物愛護管理基本指針の点検（第 2 回）について審議がなされ、当協会兵藤理事が委員として参画し、意見を述べました。

● 農林水産省アニマルウェルフェアに 対応した家畜の飼養管理に関する検討会

平成 19 年度から、採卵鶏・豚・ブロイラー・乳用牛・肉用牛について、科学的知見収集分析及び飼養実態調査に基づき、おのおの 2 年間の検討後、飼養管理指針を策定する作業が開始され、平成 21 年 3 月には、採卵鶏と豚のアニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針を、平成 22 年 3 月には、ブロイラーと乳用牛の飼養管理指針を策定しました。当協会兵藤理事が検討会委員として参画し、意見を述べました。

● 各自治体における協議会・委員会

当協会理事・本部職員・支部メンバーは、それぞれ地元及び他自治体の協議会・委員会の委員として会議に参画し、動

物福祉の向上を目指して意見を述べ、命にやさしい社会作りに努力しました。

● 緊急災害時動物救援本部

自治体における緊急災害時動物救護マニュアルの策定について、各自治体から個別にアドバイスを求められ、それぞれに対応をしておりましたが、モデルマニュアルを作成して皆様の参考にしていただこうと策定ワーキンググループを立ち上げました。来年度中に完成させて配布する予定です。

● 動物 IPO 普及推進会議 (A IPO)

本年度もマイクロチップによる個体識別の推進に努め、普及状況の把握及び登録事業の管理をしました。また、一般市民への普及活動の一環として新しくパンフレットを作成し、配布しました。平成 22 年 3 月 31 日現在の累計登録頭数は犬 268,940 頭、猫 56,060 頭、その他 2,684 四、計 327,684 頭（匹）となり、昨年度より 110,309 頭（匹）増加しました。この増加は、主に、動物の販売時にチップを埋め込むペットショップが増えたことによるものと思われます。

作文コンテスト、イベント等

● 第 50 回 動物愛護の作文コンテスト

日本の明日を背負う青少年の「いのちを大切にする心」を育むことを主眼として継続してきた作文コンテストは、第 50 回という記念すべき節目を迎えました。

今年は、応募総数も小・中学生約 1,100 人と前回を大幅に上回り、力作ぞろいで回を重ねるごとにその充実ぶりが伺えます。

厳正な審査の結果、環境大臣賞並びに当協会 1 等賞には稻留沙慧さん（愛徳学園小 4 年）の「ほたるを守りたい」と長濱理生子さん（文京学院大学女子中 3 年）の「共に生きる仲間」が選ばれました。他に特別賞の「ヒルズのサイエンス・ダイエット賞」や「昭和会館賞」を含め、合計 26 名が受賞致しました。

11 月 29 日（日）東京プリンスホテル「サンフラワーホール」に名譽総裁常陸宮妃華子殿下をお迎えした表彰式は、受賞者



記念撮影

II 広報・啓発活動

とご家族、審査員、ご来賓の皆様が出席され、和やかな雰囲気の中で執り行われました。入賞者は妃殿下から直接記念品を頂き、晴れがましさで顔を染めながら、記念写真に收まり、式典は無事に終了いたしました。

● 動物愛護週間中央行事

本年度のテーマ「めざせ！満点飼い主」のもと、動物愛護フェスティバルが開催されました。9 月 19 日は屋外行事として上野恩賜公園にて動物愛護フェスティバルを、9 月 20 日には屋内行事として東京国立博物館平成館講堂においてシンポジウム「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」が実施されました。屋外行事では例年同様、こどもコーナーで動物折り紙を担当すると共に、動物虐待の現状を写したパネルを展示し、会場に来られた方々に動物虐待防止・飼い主責任を訴えました。シンポジウム「めざせ！満点飼い主—ペットの高齢化について考える」では、医療の進歩や飼い主の意識向上でペットの高齢化が進み始めて

いる今、身体機能が衰えた高齢動物との暮らし方やケアについて、獣医師・看護師・動物の行動の専門家の方々から、寝たきりにならないための動物の若いときからのケアや動物にやさしい介護、老いてもなお一緒に楽しく暮らす秘訣、そして、避けることの出来ない最期の迎え方等をアドバイスいただきました。

◆ 動物愛護管理功労者 環境大臣表彰

横浜支部副支部長森田トヨ子氏が、動物愛護の推進に関して長年にわたるご尽力と顕著な功績があつたとして、環境省から表彰されました。



前列左から 2 番目が森田トヨ子氏

◆ 自治体主催イベントに協会理事長賞

三重県主催「動物愛護の絵・ポスター展」の入賞者に協会理事長賞を送りました。

● JAWS レポート

平成 21 年度は 59・60・61 号と 3 回発行し、協会の活動報告やお知らせ、主催・共催したセミナーの概要、JAWS ジュニアコーナーにおける漫画によるこどもたちへの動物福祉のメッセージ等を会員各位・自治体・獣医師会にお届けしました。

● 小冊子「どうぶつのきもち」発行

JAWS レポートの最後面に毎号掲載しております漫画によるこども向け動物福祉啓発紙面「JAWS ジュニアコーナー」も 10 年が経過しました。この 10 年に蓄積したものを、さらに多くの方々に知っていただこうと一冊にまとめ、保護者や教師向けの解説もつけて発行いたしました。ぜひ、多くの学校、グループ、家庭で読んでいただければと思います。

● 講演・研修・取材等

12 月 12 日・13 日、NPO 法人ノツツ主催の神戸アニマルケア国際会議が開催され、その中で、当協会としてワークショップ IV 「シェルター動物のケア・より良い譲渡に向けて」を開催しました。英国・アメリカから講師をお招きし、それぞれの国におけるシェルター動物のケアと譲渡、市民啓発等についてお話をいただき、日本における自治体及び当協会が神戸市と共にに行っている官民協働の譲渡事業の紹介もして、動物と人が共に幸せになる譲渡について討論いたしました。また、関東地区でシェルターワークに参画する方々向けても、講師としてお招きしたハワイ・ヒューメイン・ソサエティーのバメラ・バーンズ氏とカウアイ・ヒューメイン・ソサエティーのベッキー・ローズ氏にお願いして、急遽、東京で JAWS セミナー「より良い譲渡に向けて～ハワイからの提言」を開催いたしました。直前の告知にも拘らず、自治体職員等たくさんの参加者を得て、譲渡に関しての悩みや疑問等についても話し合いました。

今年度も各方面からの講演や取材の依頼を受け、当協会は積極的にこれに応じました。年間講演回数は 26 回、取材は電話取材を除き 24 回でした。その他、資料や情報提供にも応じました。中学校・専門学校・大学等からの研修も年間 15 回受け入れました。

● パネル展

事務局及び会員が、自治体や民間主催フェスティバル等で動物虐待防止写真パネル展を行いました。

● 電話等による相談

日本全国から寄せられる動物に関する様々な相談に対応いたしました。

ご支援に感謝

III 募金活動

● 常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本

妃殿下が翻訳された絵本は現在「ぼくじゃないよジェイクだよ」「せかいでいちばんおりこうないぬ」「189番めのねこ」「ハニーが盲導犬になるまで」「しょうぼう犬ドット」の5冊がございます。いずれも美しい挿絵とやさしい文章が大変好評で、バザーなどの際には多くの方がお子様やお孫様の方にとお買い求めになります。

妃殿下のご好意で、印税は動物福祉の為にと、当協会へご寄附いただいております。

● 寄付金

当協会の活動趣旨にご賛同いただき本年度も多く多くの団体、会員を含めた個人の皆様から御寄付を賜りました。

◆寄付者ご芳名（敬称略）

清水 正春	6,000,000
パッカーズ・ファンデーション	5,000,000
日本ヒルズ・コルゲート株式会社	600,000
財団法人 日本いけばな芸術協会	600,000
藤原 圓子	500,000
社団法人 昭和会館	500,000
株ビジネス・ブレークスルー (Paul Sands)	450,000
土井 誠	350,000
土田 謙一（くまちゃん）	300,000
財団法人 草月会	300,000
社団法人 常磐会	300,000
学習院桜友会	250,000

◆定期的なご寄付者（敬称略）

村田永子 石原ます子 有限会社ニューフレンズ
山村はるこ 山本邦博 中尾佳代子 松岡栄子
河合忠良 鶴田弘美 津由利子 山田昌子 川崎亜希子
匿名希望 石井重則 豊嶋純子 宮川和子 岡本芳子
山脇美恵子 小山道子 仲上誠
有限会社日淞ハウジング松浦 竹田美和 天野由利子

● 各種オリジナルグッズの販売等による募金

バザーなどでは、JAWS の犬のロゴ入り Tシャツ・ポロシャツが人気ですので、目下ネコ版も検討しております。又、動物カレンダーは写真掲載のご希望が多く、毎年、㈱日本青年会議所様に大量にご購入を頂いております。慈善ビンゴ会は、コミッティの皆様のご尽力で、募金額は昨年比 115%と伸長致しました。

今年度の募金収入は、1,284 万円と昨年度を 73 万円ほど上回りました。

厳しい経済情勢が続く中、会員の皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

IV 会員募集活動

新会員の募集

21 年度は新規入会者が 469 名と増えましたが、退会者も 557 名と増大したため 88 名の減となりました。法人会員は入会が 3 社、退会が 5 社で 2 社減となりました。言うまでも無く、当協会のあらゆる活動の基盤は会員の皆様の存在であります。協会の実績を更に積極的に PR しながら、会員数拡大に全力を挙げたいと思いますので、各支部におかれましても、新規会員の獲得に一層のご尽力をお願い申し上げます。平成 21 年度末の会員数は右表の通りです。

名 誉 会 員	2 名
法 人 会 員	28 社
終 身 会 員	156 名
維 持 会 員	282 名
名 賛 助 会 員	2,189 名
青 少 年 会 員	54 名
合 計	2,711 名

*ご住所を変更された方は、必ず事務局へご一報下さいよう、お願い致します。

会員総会

V 事務局関係

● 臨時会員総会

平成 22 年 1 月 14 日（木）平成 21 年度臨時会員総会が [ゆうばうと五反田] (東京都品川区西五反田) において開催されました。

議題として、第 1 号議案「定款改定の件」、第 2 号議案「会員に関する規則改定の件」が上程され、両案とも承認・可決され、午後 2 時 40 分に閉会しました。

● 定時会員総会

平成 22 年 6 月 5 日（土）平成 21 年度定時会員総会が [ゆうばうと五反田] (東京都品川区西五反田) において開催されました。

議題として、第 1 号議案「平成 21 年度事業報告」、第 2 号議案「平成 21 年度会計報告」、第 3 号議案「理事選任」、第 4 号議案「監事選任」、第 5 号議案「平成 22 年度事業計画」、第 6 号議案「平成 22 年度予算」が上程され、すべて承認・可決され、午後 2 時 50 分に閉会しました。

鹿野乃婦子 竹澤由紀子 寺内由紀子 吉田玲子
宮本八千代 I.Charley 太田典子 梅本好 溝口健治
山寄百合亜 水野恵美子 堀田文恵 栗林友子
佐々木姫絵香 元上久枝 高橋光太郎 柿野輝子
副馬桂子 新美絵里子 浅葉桂子 赤澤美紀 志方孝子
牛木知里 志方史 村田芳子 柏木良 山崎敏子

ここに掲載できなかった方々に対しましても心から感謝申し上げます。